

調査・分析レポート

国連北朝鮮制裁専門家パネル 2023 年 中間報告書 (S/2023/656) の概要

CISTEC 事務局

2023 年 9 月 12 日付で公表された、国連北朝鮮制裁専門家パネル 2023 年中間報告書 (S/2023/656)¹ の概要を以下にまとめた²。

※ 引用した画像の出典はすべて、北朝鮮制裁専門家パネル報告書 (S/2023/656) より。

全般状況

2023 年 1 月から 7 月までの報告期間中、朝鮮半島では政治的・軍事的緊張が高まり続けた。朝鮮民主主義人民共和国（以下「北朝鮮」）は、多くの分野で安保理の制裁に違反し続けている。

目次

■核・ミサイル開発プログラム関連

- ・火星 17 号の改良
- ・国営メディアが「ミサイル総局」の存在に初めて言及

■無形技術移転

■洋上での活動（船舶購入、瀬取り、AIS のスプー

フィング等)

- ・制裁潜脱活動
- ・(事例) 廃船した Shunli 号を騙る Diamond 8 号との瀬取りが疑われる Ever Glory 号
- ・多段階の石油製品の移転
- ・船舶の獲得
- 対外貿易（ぜいたく品、水産物）
- ・ぜいたく品の取引
- ・北朝鮮産海産物が輸出されている可能性
- 出稼ぎ労働者
- ・IT 分野の出稼ぎ労働者
- ・フリーランスプラットフォームで働く在ラオスの出稼ぎ IT 労働者
- ・レストラン従業員
- ・医療従事者
- ・建設労働者
- 軍需品・弾薬の取引
- ・Glocom 社製の軍事用通信機器のエチオピア軍向け取引
- ・北朝鮮の武器及び関連物資の仲介に関与した事例

¹ <https://www.securitycouncilreport.org/atf/cf/%7B65BF9B-6D27-4E9C-8CD3-CF6E4FF96FF9%7D/N2323869.pdf>.

² 参考資料：外務省国連制裁室「専門家パネル報告書に掲載された船舶（2023 年 10 月 28 日）」、<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100324681.pdf>.

同室「国連安保理北朝鮮制裁委員会専門家パネル 2023 年中間報告書の概要（2023 年 10 月 23 日）」、<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100574001.pdf>.

■金融（地下金融、JV）

- ・ Korea Kwangson Banking Corporation の海外代表
- ・ Green Pine Association による国際金融システムへのアクセス
- ・ 保険会社、海外との合弁企業

■サイバー窃盗、暗号資産等

- ・ Kimsuky による悪意ある添付ファイルの配布

■核・ミサイル開発プログラム関連

北朝鮮は、2017年9月に最後の核実験を行う一方、核兵器の開発と核分裂性物質の生産を継続した。寧辺（ヨンピョン）核実験場では新たな建設活動が行われ、豊溪里（プンゲリ）核実験場でも活動が継続された。北朝鮮は、少なくとも19発の固体燃料短距離弾道ミサイルを発射し、2022年と同様に大陸間弾道ミサイル（液体燃料2発、固体燃料2発）の発射実験を行った。4月13日と7月12日には、同国初の固体燃料大陸間弾道ミサイル「火星18号」の発射実験が行われた。

火星18号の発射に先立ち、北朝鮮は、これまでに確認されているタイプの液体燃料式の大陸間弾道ミサイルの発射を2回実施した。韓国の合同参謀本部と日本の防衛省によると、2月18日に順安国際空港から弾道ミサイルが東向きのロフテッド軌道で発射された。朝鮮中央通信が公開した写真には、順安国際空港の移動式発射装置（TEL）から発射された大陸間弾道ミサイル「火星15号」と見られるものが写っている。朝鮮中央通信は、この発射を実験ではなく演習と発表した。さらに3月16日、韓国軍合同参謀本部は、順安国際空港から東向きにロフテッド軌道で弾道ミサイルが発射されたことを報告した。朝鮮中央通信が公開した写真には、11軸の移動式発射装置（TEL）から発射された大陸間弾道ミサイル「火星17号」と思われるものが写っている。北朝鮮の公式メディアはここでも、発射は成功したと発表した。

・火星17号の改良

ある加盟国は、この新バージョンの「火星17号」について、ミサイル第1段の下部が従来より

も直線的になっていることを確認した（Figure II³）。この改良により、大気圏内での飛行中の抵抗が軽減されており、Missile General Bureau（ミサイル総局）はミサイルの性能と安定性に自信を持っていることがうかがえる、という。

・国営メディアが「ミサイル総局」の存在に初めて言及

尚、北朝鮮の国営メディアにより大陸間弾道ミサイル発射実験を指揮したとする、新たな組織名 Missile General Bureau（ミサイル総局、Footnote 18⁴）の存在が明らかになった。Missile General Bureau（ミサイル総局）は、2023年2月に初めて公式に言及された組織である。ある加盟国は、「ミサイルを開発、生産、管理し、主要戦略／戦術核兵器の実際の運用と配備のための任務を遂行する」ために設立されたと評価している。

■無形技術移転

専門家パネルはまた、制裁に違反する可能性のある無形技術移転についても引き続き調査した。

ドイツメディアは、北朝鮮の科学者が中国人研究者と2つの共著論文を発表していると報じ、専門家パネルは、記事について調査を行った。

金日成大学の Im Song-jin という科学者は、2019年以降、北京にある研究機関の中国人科学者との共著論文を2本発表していた（Annex 24⁵）。

これに関する中国側の回答は以下のようなものであった。

- 本件は、基礎科学研究におけるありふれた協力に基づいておりデュアルユース性や核拡散に結びつくものではない。
- 同氏の関与は、理論的な事項に限定されており、中国人研究者は何らのデータ提供も行っていない。
- 同氏が中国の大学にいた期間は2015年7～9月で、すべて自費で賄い、期間終了後に再訪もしていない。
- 同氏の訪問は2016年の国連安保理決議2321（2016）以前のことで何ら国連決議に違反もし

³ <https://www.securitycouncilreport.org/atf/cf/%7B65BFCF9B-6D27-4E9C-8CD3-CF6E4FF96FF9%7D/N2323869.pdf#page=11>.

⁴ <https://www.securitycouncilreport.org/atf/cf/%7B65BFCF9B-6D27-4E9C-8CD3-CF6E4FF96FF9%7D/N2323869.pdf#page=10>.

⁵ <https://www.securitycouncilreport.org/atf/cf/%7B65BFCF9B-6D27-4E9C-8CD3-CF6E4FF96FF9%7D/N2323869.pdf#page=123>

ていない。

■洋上での活動（船舶購入、瀬取り、AIS のスプーフィング等）

専門家パネルは、北朝鮮に石油精製品を搬入する船舶が展開した、多種多様な制裁回避手段について調査した。これには、探知を回避するためのより巧妙な手段、影響を受ける海域での取引場所の変更、多段階の積み替えを行うために船舶を増やすことなどが含まれる。

・石油精製品の輸入

専門家パネルは、北朝鮮が安保理決議に違反して石油精製品を輸入し続けているとの情報を入手した。

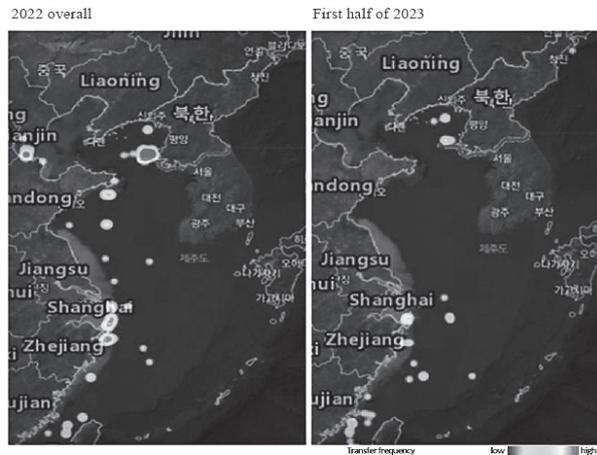
ある加盟国の提供した衛星画像のデータによると、2023年1月1日～5月1日までに南浦港その他の石油製品陸揚げ施設には、25隻の北朝鮮船籍のタンカーが通算46回の石油精製品の輸入を行っていた（Annex 26⁶）。25隻のタンカーのうち、9隻は国連安保理決議2321（2016）により、石油精製品の積み出しで外国の港に寄稿することが禁止されているタンカーである。さらに、国連安保理決議2375（2017）により北朝鮮船籍の船舶との瀬取りは禁止されている。

この加盟国によれば、46回の石油精製品の輸入について、寄港したタンカーの最大積載量の90%で見積もった場合、概算で781,497バレルの石油精製品が輸入されたことになるという。この推計値では、すでに4月2日の時点で年間の輸入上限量の500,000バレルに到達していたという。

別の加盟国は、2023年の第一四半期の時点ですでに80,000トン（638,400バレル）の石油精製品が国連安保理決議に違反して輸入されたと推計した。

違法な瀬取りの頻回に行われている海域を特定した（Figure VI⁷, Annex 28⁸）。

Figure VI
Democratic People's Republic of Korea illicit ship-to-ship transfer areas in 2022 and during first half of 2023



・制裁潜脱活動

- (a) 台湾海峡付近で発生している多段階にわたる石油製品の移転
- (b) 中継船舶による AIS による不審な行為
- (c) 北朝鮮の海域内で北朝鮮のタンカーと落ち合う際に、偽装した AIS 信号を発する。
- (d) 船舶を所有する企業の属性情報の露出を抑制、またはオンライン上にその痕跡を残さない（連絡先を登記等の会社業務を代行する企業秘書役のみとしたり、使い捨てのメールアドレスの利用、気付扱いの住所、不明な実質的所有者など）。

・（事例）廃船した Shunli 号を騙る Diamond 8 号との瀬取りが疑われる Ever Glory 号

ソーシャルメディアに投稿された乗組員の動画では、2023年2月19日、Shunli 号と Ever Glory 号が船体を並べて隣り合っている様子が映っていた。Shunli 号の甲板は緑色の塗装になっているが、これは Diamond 8 のそれと同じである。専門家パネルは、ビデオの解析、AIS の分析、Ever Glory 号の乗組員の国籍と投稿されたビデオの言語が一致していることなどから、Shunli 号に偽装した Diamond 8 号と Ever Glory 号が洋上で隣接していたことを確認した（Figure XIV⁹）。

⁶ <https://www.securitycouncilreport.org/atf/cf/%7B65BF9B-6D27-4E9C-8CD3-CF6E4FF96FF9%7D/N2323869.pdf#page=132>.
⁷ <https://www.securitycouncilreport.org/atf/cf/%7B65BF9B-6D27-4E9C-8CD3-CF6E4FF96FF9%7D/N2323869.pdf#page=17>.
⁸ <https://www.securitycouncilreport.org/atf/cf/%7B65BF9B-6D27-4E9C-8CD3-CF6E4FF96FF9%7D/N2323869.pdf#page=154>.
⁹ <https://www.securitycouncilreport.org/atf/cf/%7B65BF9B-6D27-4E9C-8CD3-CF6E4FF96FF9%7D/N2323869.pdf#page=27>.